

二〇〇三年度から二〇〇四年度にかけての一九一号『文化財』の保護と活用」、一九二号「市町村合併と文化財のゆくえん」、一九三号「五〇年のあゆみ」、一九四号（本号）「大友特集」の四号分にわたって大分県地方史の五〇周年を記念として特集号を組ませていただきました。関係の方々の努力により、内容は、五〇年を総括し、地方史の未来を探ることを目指した企画としてそれなりのものができたと確信しています。

しかしながら、その前号からの遅れと聞き取りやテープ起こしを伴う編集作業という事情もあり、特集の順序を入れ替えて、年度内発刊を目指しましたが、一九一号・一九二号は大会直前の六月、一九三号は七月一日の大会当日、一九四号は七月末、発刊という事態になりました。結果として、特集の四冊が年の最後にまとめて発刊としてことになり、会員各位への手もとに会誌が届くのが大幅に遅れることになり、学会誌の情報提供の役割を果たせず、ご迷惑をお懸けしました。その間の事情やお詫びについては、本誌に同封した会長

の詫び状をご参照してください。

いづれにしても、結果として会員各位には大変ご迷惑をお懸けしてことは委員会として心からお詫び申し上げます。会務報告についても、昨年度分については、一九一号に掲載する必要がありました。四冊が六・七月に出される事態となつたため、今回特別の措置として、二〇〇四年の大会・事業の報告と二〇〇五年度の大会・事業計画を合わせて本号に掲載することに致しました。ご容赦願います。

二〇〇四（平成一六）年度の大会・事業について

大会・総会は平成一六年六月二〇日（日）一〇：〇〇～一六：三〇 別府大学三号館ホールで開催された。五〇周年記念企画として、別府大学史学研究会と共催し、「アーカイブズ・フォーラム大分」ということで一九日（土）は別府大学史学研究会が担当し、二〇日（日）は大分県地方史研究会が担当するかたちで行われた。地方史大会は午前中の会員研究発表も以下のようにアーカイブズ関係の報告となり、終日市町

村合併とアーカイブズの問題が発表・議論された。

研究発表 ①佐藤晃洋「史料の保存活用と歴史教育の接点を

求めて」

②小柳和宏「発掘調査における記録資料と遺物の

保存をめぐる」

③中山昭則「地図史料の活用と保存をめぐる」

シンポジウム「市町村合併とアーカイブズ」

パネラー

神繁司（県立図書館・県公文書館）、後藤清（日田市）、

菊田徹（白杵市）、保坂裕興（駿河台大学）、甲斐素純

（玖珠史談会）、末廣利人（別府大学）

コーディネーター

飯沼賢司（別府大学）、平井義人（県立歴史博物館）

なお、このシンポジウムの内容は平井義人編集の一九二号に盛り込まれているので参照されたい。

総会は、終了後行われ、二〇〇三年度の事業・会計報告、五

〇周年の記念事業（特集四冊一九一〜一九四号、記念シンポ

ジウム、記念の懇親会）の計画、予算などについて承認され

た。このときも、すでに会誌の遅れが出ており、お詫びをし

た。それにもかかわらずこのような事態を招いたのは偏に会

務総括している会長・委員長の責任であると痛感している。

その日の夜は、亀の井ホテルにおいて五〇周年の記念パー

ティーが開催され、五〇人ほどの方が集まった。この席で、

第二〇回の地方史研究奨励賞の授与式が行われ、武田信也氏

に賞状と副賞が渡された。

二〇〇四年度の研究会活動としては次のような発表が行わ

れました。

古代中世史研究会

五月 八日 田中裕介

近世都市鶴崎の成り立ちと中世大野川河口部

―考古・歴史地理的観点から

七月三十一日 梅野敏明

大友氏権力における土豪勢力の編成過程

―豊後国における「せんどう」・「べんざし」

を中心

十一月三十一日 八木直樹

一六世紀後半における豊後府内・白杵と大友氏

二月二六日 大塚俊司

戦国期大友氏の寺社政策と祈禱

近世史研究会

五月二九日 平井義人

市町村合併と文化財のゆくえ

八月二二日 梅野敏明

近世大名の鷹狩りについて — 『木下延俊慶

長日記』を素材に—

一一月二一日 平井義人

近世絵図の世界

二月二六日 平井義人

慶長期細川検地に関する史料について

五月二八日 平井義人

臼杵藩における絵図の製作と利用・管理に關

する若干の考察

近現代史研究会

六月 五日 針谷武志

豊後府内藩の海防についての二三の問題

九月二一日 長野浩典

幕末維新期の村と生活文化

一一月二一日 橋本明

大分県公文書館所蔵『昭和15年監置精神病患

者に関する綴り』を読み込んで

三月二二日 朝川貴俊

大分県農学校臼杵中学の発足

中家洋介

アジア太平洋戦争と宇佐海軍航空隊

二〇〇四(平成一七)年度の大会報告・事業計画

大会・総会は平成一七年七月一〇日(一〇:〇〇)~一五:

三〇)に大分県立図書館第二・三研修室において開催された。

午前中の会員研究発表は、大塚俊司「豊後一宮由原宮の放生

会と大友氏」、上野淳也「イデオロギー装置としての大友館

—豊後府内発掘の成果から」、松原勝也「元龜三年大友氏に

よる伊予出兵の実像」の三報告が行われた。大友研究の進展

が目覚ましいことを実感できる報告であり、本号「大友特集」

の特集にも反映される。

午後から総会が開かれ、少し遅れて三時から公開講演会と

して飯沼賢司「環境歴史学からみた中世荘園の世界——大野荘・緒方荘・直入郷」が行われた。講演は別府大学飯沼研究室が文部省科学研究費で大野郡・直入郡域で二〇〇一年度—二〇〇四年度まで実施した環境歴史学的調査の成果である。

總會

最初に豊田会長の挨拶があり、ここで、会誌の発刊年の遅滞についての説明と会員へのお詫びを行い、今後の対策について説明が行われた。すでに、六月の発送の際に一応の詫び状を同封したが、説明が不十分なものであったので、今回會長名で文書を同封することとしており、詳しくはそちらを御覧いただきたい。

次に、座長の選出が行われ、委員長の提案で、佐藤満洋氏が座長に承認された。以後、座長の司会で議事が行われた。まず、昨年度の事業、会計報告が行われた。会誌の遅れの経緯を説明し、お詫びした。次に、会計報告が行われ、監事から適正に使用されたとの監査報告があった。なお、昨年度は会誌四号分を予算化したが、会誌発刊の遅れらか一号分未納になっている号があるため、会費不足で最後の一九四号は今

年度の処理にまわすこと提案し、事業報告と会計報告をあわせて承認された。

次に、二〇〇五年度の事業計画が提案された。大会の予定について報告した後、委員長から役員改選年ではないので、現在の体制のまま、委員の連絡をよくし、責務を果たすことを確認し、投稿場所の一本化などを行い、担当を会誌毎に明記するようにすること、また、会員の確保のため、史談会や大学との連携をより強める事業を展開するなどの提案があった。

今年度の機関誌の発刊予定は、三号三冊、各四〇〇部、九〇頁であることが提案された。本年度の編集担当者は一九五号（渋谷 県埋蔵文化財センター）、一九六号（小泊 別府大学）、一九七号（白峰 別府大学）、編集担当委員は、武富（大分市歴史資料館）、佐藤（晃）（県教育委員会）である。投稿原稿などについては、窓口を一本化し、大分市歴史資料館に送付することが決められた。

月例会の研究担当は、古代・中世部会 三重野誠、近世史部会 平井義人、近現代史部会 長野浩典を提案した。

この後、質疑が行われ、編集遅れの予想はできたはずなの

に対策が取れなかったのはなぜか、住所変更の手続きができていないのはなぜかなどの質問があった。これに対して、委員長は五〇年ということをやや任の重い計画を立てたことは事実であり、これについてはお詫びするしかないと答えた。ただ、問題のすり替えになるかもしれないが、特集については、五〇年にふさわしいものができたと考えるとも答えた。

また、住所変更の手続きの混乱は、事務局体制の問題であると答えた。現在の地方史の事務局はかたちの上で大分大学にあり、事務体制は先哲史料館、大分市歴史資料館、別府大学とばらばらに担っている状態となっている。このことが問題の一つの原因となっており、今年度は体制の変更はできないが、来年度、体制の見直しを考え、当面は、連絡先などの場所、役割分担を会誌毎号ごとに明記することでそのような事が無いようにしたいと答えた。また、大会を中央大会、地方大会に分け、隔年でこれを行うことによって、史談会などの地域との連携を図ることが必要であるという提案があり、委員長は積極的に検討したいと答えた。以上、質疑の後、事業計画は承認された。

最後に予算の提案が行われた。昨年度処理できなかった一

九四号を含めて、四号分の予算を計上し、収入確保の工夫をし、これまでの歪みを今年度中に解消するとの提案をした。予算の質疑では、問題はあるが、やむ終えないとのことであるが、予算書の計算が間違っているとの指摘があり、本号に訂正した予算書を掲載することを約束し、承認された。

2004年度収支精算書

1) 収入の部

区 分		予算額	精算額	差引増減	備 考
会	費	840,000	555,000	△285,000	
補	助 金	240,000	240,000	0	県費補助金
		50,000	50,000	0	芸振補助金
事業 収入	会誌バックナンバー売上	30,000	80,000	50,000	
	史 料 集 売 上	10,000	33,300	23,300	
雑 収入	広 告 料	142,000	0	△142,000	
	預 金 利 子	4	0	△ 4	
	寄 付 金	0	0	0	
前 年 度 繰 越 金		358,056	358,056	0	
合 計		1,670,060	1,316,356	△353,704	

2) 支出の部

区 分		予算額	精算額	差引増減	備 考
報	償 費	75,000	75,000	0	
旅	費	40,000	40,000	0	
研	究 費	15,000	15,000	0	
需	用 費	1,385,000	980,500	△404,500	
役	務 費	130,000	77,545	△ 52,455	
使用料及び賃借料		500	0	△ 500	
負	担 金	15,000	15,000	0	
慶	弔 費	5,000	0	△ 5,000	
予	備 費	4,560	0	△ 4,560	
合 計		1,670,060	1,203,045	△467,015	

(収入) 1,316,356円 - (支出) 1,203,045円 = (繰越金) 113,311円

3) 支出内訳明細書

区 分	予算額	精算額	差引増減	備 考	
報 償 費	講 師 謝 礼	35,000	35,000	0	シンポ講師謝金
	事務協力者謝礼	40,000	40,000	0	
	小 計	75,000	75,000	0	
旅 費	一 般 旅 費	20,000	20,000	0	
	調査研究旅費	20,000	20,000	0	
	小 計	40,000	40,000	0	
研 究 費	研 究 費	15,000	15,000	0	
	小 計	15,000	15,000	0	
需 用 費	会 議 費	10,000	1,000	△ 9,000	
	機関誌刊行費	1,360,000	976,500	△383,500	191~193号
	文 具 費	15,000	3,000	△ 12,000	
	小 計	1,385,000	980,500	△404,500	
役 務 費	通信運搬費	110,000	57,545	△ 52,455	会誌郵送費他
	編集通信費	20,000	20,000	0	昨年度分含む
	小 計	130,000	77,545	△ 52,455	
使用料及び賃借料	500	0	△ 500	会場借り上げ等	
負 担 金	15,000	15,000	0	芸術振興会議会費	
慶 弔 費	5,000	0	△ 5,000		
予 備 費	4,560	0	△ 4,560		
合 計	1,670,060	1,203,045	△467,015		

2005年度予算書

1) 収入の部

区 分		予 算 額	備 考
会	費	1,050,000	3,000円×350人
補	助 金	240,000	県費補助金
		50,000	芸術振興会議補助金
事業収入	会誌バックナンバー売上	30,000	500円×40冊, 1000円×10冊
	史 料 集 売 上	10,000	500円×20冊
雑収入	広 告 料	138,000	前年度含む
	預 金 利 子	4	
	寄 付 金	0	
前 年 度 繰 越 金		113,311	
合 計		1,631,315	

2) 支出の部

区 分		予 算 額	備 考
報	償 費	60,000	
旅	費	40,000	
研	究 費	15,000	
需	用 費	1,386,000	
役	務 費	104,000	
使用料及び賃借料		500	
負	担 金	15,000	
慶	弔 費	5,000	
予	備 費	5,815	
合 計		1,631,315	

3) 支出内訳明細書

	区 分	員数	単価	予算額	備 考
報 償 費	講 師 謝 礼	1人	20,000	20,000	公開講演会講師謝金
	事務協力者謝礼	8人	5,000	40,000	
	小 計			60,000	
旅 費	一 般 旅 費	20回	1,000	20,000	
	調査研究旅費	4人	5,000	20,000	
	小 計			40,000	
研 究 費	研 究 費	3部会	5,000	15,000	
	小 計			15,000	
需 用 費	会 議 費	2回	3,000	6,000	
	機関誌刊行費	4回	340,000	1,360,000	194~197号分
	文 具 費			20,000	ラベル他
	小 計			1,386,000	
役 務 費	通信運搬費	一式		84,000	会誌郵送費・切手代他
	編集通信費	4回	5,000	20,000	昨年度分含む
	小 計			104,000	
使用料及び賃借料			500	会場借り上げ等	
負 担 金			15,000	芸術振興会議会費	
慶 弔 費			5,000		
予 備 費			5,815		
合 計				1,631,315	